

<カキクダアザミウマ>



4月下旬～5月上旬に越冬場所から飛来しカキの新葉を巻いて内部で増殖する。



6月下旬、新成虫が巻葉から一斉に分散。



カキ幼果のヘタの下で吸汁加害。のちにリング状に黒い斑点となる。

<カキクダアザミウマ>

学名：Ponticulothrips diospyrosi Haga et Okajima

1. 被害

平成元年に町田市で初発生以来、数年にして都下全域に拡大した。越冬成虫が4月下旬から5月上旬にかけて柿園に飛来し新葉を巻葉、内部で産卵増殖する。6月下旬、新成虫は巻葉から一斉に飛散し、幼果のヘタの下部へ侵入、吸汁加害する。この斑点が帯状となり、外観を著しく損なう。

2. 生態

成虫態でカキとアカマツの樹皮下で越冬する。年1回の発生。

3. 防除

- 1) 4月下旬～5月上旬と6月上旬～7月上旬にオルトラン水和剤、スプラサイド水和剤、テルスター水和剤、オフナック水和剤、パダン水溶剤などを散布する。
- 2) 冬期に粗皮を削り、集めて焼却するか土中に埋める。

4. 記事

本種は、1990年5月、町田市で発生した。